いずみのひろば

2017年5月号
日本基督教団堺教会
No.462 教会学校

イエスさまの復活　マタイによる福音書二八:一～一〇

この一週間は大変なできごとがありました。

木曜日　夜、大勢の人々がやってきて、イエスさまをつかまえました。

金曜日　イエスさまは、朝はやくにポンテオピラトのまえにつれていかれました。そして、さいばんにかけられて、十字架で死刑にされることになってしまったのです。そのあと、ムチで何回もうたれて、いばらのかんむりをあたまにかぶせられ、つばをはきかけられました。重い木の十字架をかつがされ、ゴルゴタというところまで歩かされました。人々は大きな長いくぎでイエスさまの手と足を十字架にうちつけました。イエスさまはどれほど苦しまれたことでしょうか。一二時になるとあたりはまっくらになりました。ごご三時ごろイエスさまは大声でさけびました。「エリ、エリ、レマサバクタニ」これは、「わが神、わが神、なぜわたしをお見捨てになったのですか」といういみです。そして、とうとうイエスさまは息をひきとられたのです。マグダラのマリアともう一人のマリアさんは、この十字架のざんこくなできごとを遠くから見ていました。金曜日の夕方に、アリマタヤのヨセフという人がイエスさまの体を十字架からおろし、きれいな布につつんで、岩のほらあなのようなお墓のなかにいれました。そしてその前に大きな石をころがしてふたをしました。

土曜日は安息日、神さまをれいはいする日です。マリアさんたちは、イエスさまのお墓に行きたかったかもしれませんが、いけませんでした。

日曜日の朝はやくまだうすぐらい時に、マグダラのマリアさんともう一人のマリアさんはイエスさまのお墓にむかいました。死んでしまったイエスさまの体に油をぬるためです。イエスさまが生きていたときのことを思い出すためだったかもしれません。マリアさんたちがお墓についたときのことです。グラグラ！！と地面がゆれました。大きな地震です。天使がイエスさまのお墓の前にあった大きな石を横にころがして、そのうえにすわったので、地震がおこったのでした。天使はまっしろにかがやいていました。そしてマリアさんたちに言いました。「十字架につけられたイエスさまをさがしているのでしょうが、あの方はここにはおられない。復活されたのだ」

マリアさんたちはびっくりしました。「やったあ！！！」マリアさんたちはおよろこびで弟子たちに知らせるために走っていきました。死んでしまったイエスさまが復活されました。でもうれしいのはそれだけではありません。イエスさまを信じる人には、イエスさまと同じように復活の希望があたえられるのです。「神はその独り子をお与えになったほどに世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで永遠の命を得るためである」（ヨハネによる福音書三:一六）、そうです、わたしたちにはイエスさまと同じ復活の希望が与えられています。

みなさんイースターおめでとうございます。

（おはなし　ゆたに　かずしげ先生）